

第 17 回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 5 年 1 月 19 日 (木曜)		午前 9 時 3 0 分 開会	
	休 憩 10:16-18 10:27-45 11:08-09			
	午前 1 1 時 1 5 分 閉会			
	休憩時間：0 時間 2 1 分		会議時間：1 時間 2 4 分	
会 議 場 所	3 階委員会室			
出 席 委 員 氏 名	委員長	渡辺洋一郎	委 員	正村紀美子
	委 員	常通 直人	委 員	堀切 忠
	委 員	西尾 一則	委 員	橋本 和仁
	委 員	柴田 正博		
説 明 員	高齢者支援課長	坂口 勝己	保健推進係長	吉川 泰子
	課長補佐	佐々木博史	社会福祉係長	上 嶌 寛
	介護保険係長	林 宏明	社会福祉係主査	角 諭志
	介護保険係主査	高谷真理子		
	健康福祉課長	大野 邦彦		
参 考 人				
欠 席 委 員 氏 名	副委員長	黒田 栄継		
事務局職員	事務局長	安田 敦史	総務係主査	上田瑞紀
『会議に付した事件と会議結果など』				
1 開 会				
委員長が開会を告げ、黒田副委員長の欠席を報告し、事務局から本日の委員会の日程を説明する。				
2 議 件				
(1) 調査事項				
ア 学生カイゴチャレンジ奨励金事業の進捗状況について 資料 1				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援課長：事業概要説明。資料説明を介護保険係長から説明する旨を告げる。 ・ 介護保険係長：資料説明（事業目的、これまでの取組、受入希望事業者の状況、実施状況、その他の取組み） ・ 委員長：意見・質疑はないか？ ・ 常通委員：「2：これまでの取組み」の記述は、令和4年度のものか？令和3年度以前から取り組んできた概要か？ ・ 高齢者支援課長：令和4年度の取組みである。 ・ 橋本委員：年度当初の説明を振り返ると、当初の事業目標数値は2名であったが、 				

実績が3名となっている。この背景と予算措置（当初予算：21万円）の追加等の必要性は？

- ・高年齢者支援課長：「2：これまでの取り組み」に記載の内容をはじめ、創意工夫を重ねながら事業に取り組んできた実績と捉えており、当初予算では2人工を12か月として計上したため、補正予算はせずに事業を執行できる見込みである。
- ・橋本委員：年度当初に説明のあった受入事業者に対する奨励金交付の要綱整理について、検討状況は？
- ・高年齢者支援課長：要綱を新規制定し、取り組んできた。
- ・堀切委員：事業実施にあたり、町外の施設等で介護のアルバイトをするような町内在住の高校生を対象にしてはという提案をしたが、その検討経過は？
- ・高年齢者支援課長：今年度事業の制度設計には間に合わなかったため、具体的な検討はしていない。
- ・堀切委員：事業目的を踏まえると、町内事業所の人材不足のみならず、将来的に町内在住の高校生も対象にして、町外の施設等で介護経験を積んだ後で町内への還元効果も期待できる側面もある。今後に向けての展開は？
- ・高年齢者支援課長：まずは、町内事業者への還元効果を趣旨としているため、今年度の事業を継続していきたい。
- ・正村委員：事業のPRに訪問した短大、専門学校の反応はいかがか？
- ・介護保険係長：理解を示していただいた感触はある。
- ・正村委員：時期限定のアルバイト等への展開についての反応は？
- ・高年齢者支援課長：PRはしたものの、実績には結びつかなかった。
- ・正村委員：コロナの影響は度外視できない実状も理解するものの、想定どおり実現しなかったことも多かったと分析する。次年度に向けての展望は？
- ・高年齢者支援課長：事業の初年度ということもあり、PRに出向いた学校側の理解は一定得たものの、実際に学生の関心に直結するまでには至らなかったと分析している。次年度に向けては、町が、直接、学生にアプローチすることも考えていきたい。
- ・正村委員：中学生への出前講座も実施されている。この事業の実施評価は？
- ・介護保険係主査：芽室中学校、芽室西中学校に7月と12月に計4回実施した。家庭科の授業を活用し、担当教諭からは継続実施を望む声もあり、町としても次年度にも続けていきたい。生徒のアンケートからも評価が垣間見える。
- ・正村委員：受入事業者が6事業者に拡大したが、この背景は？
- ・高年齢者支援課長：まだ、全体の総括はしていないが、一例としては、若い世代の方が介護現場に入ることで、施設の雰囲気明るくなる効果などもあり、また、学生にとっては専門知識の会得につながる事業ともなり、一定の効果はあったと捉えている。
- ・常通委員：実績を見ると、冬季休業と春季休業と記載されているが、年度をまたぐ事業実施の見通しとなるか？
- ・高年齢者支援課長：予算の執行は、年度で区切る前提である。
- ・常通委員：今年度の事業実績を見ると、新年度に向けては、学生アルバイトの単価

を上げるような改正を検討してはいかがか？

- ・高年齢者支援課長：既存の現場で働いている立場の賃金との均衡を考えて設定した金額であり、新年度に向けても同じ設定で取り組んでいきたい。
- ・常通委員：学生にとっても事業にとっても、効果的な事業になるよう、単価設定について、精査・吟味していただきたいが、いかがか？
- ・高年齢者支援課長：趣旨を踏まえて検討したい。
- ・橋本委員：学生への賃金の支給の流れは？事業者からか？町からか？
- ・高年齢者支援課長：所定の手続きを経て、本人に対し、町が支給するもの。
- ・柴田委員：介護事業（人材育成・人材確保）に関して、国のスタンスと自治体独自の責務・役割との区分は、どのような整理となっているか？
- ・高年齢者支援課長：介護事業に係る人材育成や人材確保については、地元の社会福祉協議会との連携や十勝圏活性化推進期成会などを通じ、国や道に要望している。
- ・柴田委員：単独自治体のみでの行動では、限界がある事業もある。国が設けた制度を実施することで個々の自治体が補助金を得る事業もあれば、自治体の独自事業に支援を受ける事業手法など、その仕組みは大きく2分化される。この事業の目的達成に向けては、各自治体が各地域の風土にふさわしいものを築くために、どのような手法を採用するかという視点も重要と考えるがいかがか？
- ・高年齢者支援課長：御提言を踏まえて、事業の効果が最大限発揮できるように創意工夫を重ねていきたい。
- ・柴田委員：全国共通の課題に対応・解決するには、息の長い着実な取り組みが必須となる。単独自治体の取り組みのみではなく、複数自治体のタッグや十勝全体のネットワークなどの手法も念頭に置きながら、今後に向けて取り組んでいただきたいと思うが、いかがか？
- ・高年齢者支援課長：先ほどの御提言と併せて、今後の取組みに際し、念頭においていきたい。
- ・委員長：他に意見・質疑はないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ 新型コロナウイルスワクチンの接種状況について 資料2

- ・健康福祉課長：資料説明＜第15回厚生文教常任委員会（12月6日）以降の確定及び変更点について説明。主に、初回接種の実施期間（令和5年2月まで）、接種体制、接種状況（1月16日現在）＞
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・常通委員：オミクロン株は「1回のみ」という定義を詳しく説明願いたい。
- ・健康福祉課長：接種間隔や対象年齢という条件設定とも関連するが、現時点では、オミクロン株は1回としている。国等の関係機関では、従来株や変異株への対応も並行して研究中のため、都度示される指針に基づき正確な広報に努めていきたい。

- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：調査事項「イ」を終了する。

ウ 新型コロナウイルスワクチン間違い接種の発生について 資料3

- ・健康福祉課長：資料説明（概要、原因、再発防止策）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ウ」を終了する。

エ 第4期芽室町総合保健医療福祉計画及び第5期芽室町地域福祉計画の策定について 資料4

- ・健康福祉課長：事業概要の説明。資料説明は担当主査から説明する旨を告げる。
- ・社会福祉係主査：資料説明（共通のポイント、地域福祉計画のポイント、今後のスケジュール）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・正村委員：「重層的支援体制の構築」を追記するに至った主な経過は？法定事業であり、町の任意事業である。なぜ、町はこの方針に至ったのか？
- ・健康福祉課長：長年にわたる本町独自の「保健福祉医療」に係る取組みの総合機能として、名実ともに有効と捉えて、町が積極的にこの方針を明確にするために方針にしようとするものである。
- ・正村委員：すでに構築されている町のシステムについて、あえて、改めて、当該計画に「重層的支援体制のイメージ」とする意義は？
- ・健康福祉課長：過去からの町全体の取組みが積み重なった結果により「重層的支援体制」が、本町で一定確立されてはいるものの、それぞれのケースや事象については複雑・多様化する実態がある。そのため、問題解決の共通言語として、今後に向けても、その姿勢が明確となるよう、計画に位置付けようとするものである。
- ・正村委員：人的資源（ソーシャルワーカー・民生児童委員等）も重要要素となる。人材育成・人材確保の視点として展望は？
- ・健康福祉課長：関係機関や関係者と共に情報を共有しながら、地域課題を解決できるチャンネルを増やし、取り組んでいきたい。
- ・正村委員：地域福祉計画のポイントについて、資料に記載の4項目以外のポイントは？資料記載のポイントは町の主張も同様と捉えて良いか？
- ・健康福祉課長：今回、調査対象の計画は第5期の地域福祉計画の後期計画であり、前期計画の踏襲が主となっている。そのため、協議会や部会で出された意見を中心に、4項目を記載したものであり、町としても共鳴することからポイントとして記載したものである。
- ・委員長：他にないか？

- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で調査事項「エ」を終了する。

オ 12月定例会議の振り返りについて 資料5

- ・委員長：資料について、意見はないか？
- ・常通委員：振り返りとして適正と考える。
- ・委員長：提出された「振り返り」を議会運営委員会に提出することにしたい。異議ないか？
(異議なし)
- ・委員長：決定する。

- ・委員長：お諮りする。論点整理のための議員間討議を行う。調査事項「ア」について、自由討議はあるか？
- ・(なし)
- ・委員長：適宜、時期を見て継続調査とする。

- ・委員長：調査事項「イ」及び「ウ」について、いかがか？
- ・(なし)
- ・委員長：これまで同様に定期的に継続調査とする。

- ・委員長：調査事項「エ」について、いかがか？
- ・(なし)
- ・委員長：必要に応じて調査事項とする。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について
正副一任とする。

(2) その他

- ・委員長：各委員からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：議長からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：事務局からないか？
- ・(なし)

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	0名	合計	1名
令和5年1月19日								
厚生文教常任委員会委員長 渡辺 洋一郎								